

## 《Lesson 3》「時制の一致」の例外

主節と従属節の時制を一致させなくてもOKな場合がある。

### (1) 「習慣」や「現在も当てはまること」を説明する場合 → 過去形でも現在形でもOK。

<例> She said she practices / practiced the piano every day.

(彼女は、毎日ピアノを練習すると言いました)

「彼女は、毎日ピアノを練習する」という「習慣」を表している

He said he does not / did not like vegetables.

(彼は、野菜が好きではないと言いました)

「彼は、野菜が好きではない」という「現在も当てはまること」を表している

### (2) 「不変の真理」や「社会通念」を説明する場合 → 過去形でも現在形でもOK。

<例> Mr. Suzuki said the sun is / was much bigger than the earth.

(鈴木先生は、太陽が地球よりもかなり大きいと言いました)

「太陽は地球より大きい」という「不変の真理」を表している

My mom said babies cry / cried a lot.

(母は、赤ちゃんはよく泣くと言いました)

「赤ちゃんはよく泣く」という「社会通念」を表している

### ポイント！ 過去形と現在形の使い分け

過去形と現在形を使い分けることで

話し手が「どの時制まで含めるか？」をはっきりさせる

ことができる。

<例> She said she practiced the piano every day.

→ 彼女が発言した時点では、毎日ピアノの練習をしていたが、現在はどうなのか聞き手側は判断できない。

She said she practices the piano every day.

→ 現在もピアノの練習を毎日しているということが、聞き手側にも理解できる。

つまり「話し手の意図によって、あえて時制を一致させない」という形も例外としてある。

今回登場する名詞の説明に使われる **that** の文は、文法的には「時制の一致」のルール通り「主節が過去形なのであれば、**that** の後を表す日本語が現在形であっても英語では過去形」となる。

<例> I bought a DVD (that) she wanted to watch.

(私は彼女が見たがっているDVDを買いました)

I read the book (that) she liked.

(私は、彼女が好きな本を読みました)

ただし、名詞の説明に使われる **that** (と次回登場する関係代名詞) では時制の一致を受けない(あえて一致させない) 例外の形が比較的多く見られると言われている。

<例> I bought a DVD (that) she wants to watch. **時制を一致させない**

(私は、彼女が見たがっているDVDを買いました)

→「今も、彼女は見たいと思っている」ということをはっきりさせている

I watched the movie (that) she likes. **時制を一致させない**

(私は、彼女が好きな映画を見ました)

→「今も、彼女は好き」ということをはっきりさせている

この理由は、今回登場する **that** (や次回学ぶ関係代名詞) は、あくまで「名詞を詳しく説明する」といった「+αの情報を足すのが目的」なので、

**文法のルールよりも話し手の意図を優先させることが多いから**

と考えられている。特に英語コミュニケーション(「英会話」や「カジュアルなメール」など)の場合、自分の意図を伝えるのが目的ですから、この「時制を一致させない例外の形」が頻繁に登場する。

《まとめ》

**時制の一致には例外の形がある。今回登場する **that** (や次回学ぶ関係代名詞) ではこの例外の形がよく登場する。**